



【発行】
一般社団法人
奈良県手をつなぐ育成会

【県事務局】
奈良県橿原市大久保町 320-11
奈良県社会福祉総合センター内

理事長
【発行責任者】 阪口 貴子

【編集責任者】 岩井 恵照



全国大会・京都大会を契機に前進を!! 新しい時代に向けて

理事長 阪口 貴子

去る 2 月 23 日・24 日に「第 5 回 全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会京都大会」が「国立京都国際会館」で盛大（参加者…4000 人（2 日間））に開催されました。奈良県からも約 100 人の参加がありました。

この大会の特徴は、「近畿手をつなぐ育成会連合会」が、平成最後の全国大会として、一つになり協議を重ね、近畿圏の育成会が各分科会を担当したこと。本大会は、「京（みやこ）からほほえみあふれる明るい未来へ」をテーマに 6 つ（「教育・療育」「はたらく」「高齢期」「暮らし」「権利擁護」「障害児のきょうだい」）分科会が催されました。これらの分科会では、各分野の現状と今後の課題について熱心な討議がなされ、共に支え合う共生社会の実現に向けての取り組みと決意が確認されたと思います。

このための「リラククスルーム」が用意されるなど本人の気持ちに寄り添い参加しやすい工夫もありました。

奈良県育成会は、又村あおいさん（機関誌「手をつなぐ」の編集委員等）を助言者に招き、第一分科会「はたらくトーク」みんなで話し合う」を担当しました。この分科会には、本人大会の中で参加者が一番多く約 140 人が参加されました。内容は、「はたらくとは？」をテーマに、午前中は 3 名の体験発表を、午後からは、参加者が 6 班に分かれグループトークを行いました。（休憩時間にリラククス体操）

このグループトークでは、大西主任支援員はじめ、奈良県特別支援教育研究会の先生方、特別支援学校 6 校の進路指導の先生方、中和・東和の障害者就業・生活支援センターの相談支援員の皆さま方にはご多用のところ当日ご参加をいただき、グループワークの進行を支援していただきました。関係者のお力添えと当会の保護者支援員、サンメイトの皆様、全国からご参加いただいた皆様のご協力のことも滞りなく無事に終了できましたこと

を心より御礼申し上げます。また、参加いただいた先生方には、働く現場の声を聴いていただき、今後の進路指導や相談支援へ役立てていただければ幸いです。

サンメイトの運営委員の皆さんは、一年以上前から取り組み、日曜日に京都会議に出席し、進め方を議論し、役割分担もみんなで決めました。

奈良県育成会の 30 年度の研究大会は、練習のためのプレ全国大会として「はたらく」をテーマに人前で話すことの経験を重ね自信を持って全国大会に臨みました。また、当日の宿泊体験や全国の仲間と夜の本人交流会に参加して、いろんな経験をすることが出来ました。サンメイトの皆さんも自己肯定感を培い自信につながったと思います。

2 月 24 日は、天皇陛下在位 30 周年の記念式典が政府主催で行われていました。4 月末に天皇陛下が退位され時代が変わるこの機に、久保会長の「前に進める」という力強い挨拶と精神科医北山修氏の講演「あの素晴らしい愛について」からつながる意義のメッセージをいただきました。会場での AI ロボット「テ次郎君」等の展示、障害者の福祉施策の超党派議員の応援メッセージ。わが子の幸せを願う同志として、「近畿手をつなぐ育成会連合会」が一つになり全国大会への企画運営に参加参加したことは大変意義深く、次世代育成をスローガンとして、本人の意志決定支援・合理的配慮への環境整備に向けて、全国・近畿・奈良県・市町村育成会より強固につながっていきたく決意を新たにしたい全国大会でした。



平成 30 年 11 月 19 日



講演 1

「高齢化にともなう相談支援と居住支援の中から現状と課題」

講師 社会福祉法人大和郡山育成福祉会
統括施設長 竹内聖典氏

毎年この時期に開催されている育成会研究大会ですが、過去数年にさかのぼってテーマをふり返ってみますと、障がいのある人の高齢化（重度化）による医療保障の問題、親の高齢化による緊急時受け入れや居住支援整備等について考えてきました。今年の大会においても、親なき後の本人の将来が豊かなものであってほしいという願いがこもった大会テーマとなりました。午前の部は、二題の講演を聴きました。

第48回 一般社団法人 奈良県手をつなぐ育成会研究大会
親なき後をふまえ、
わが子らの「これからを考えよう」
～豊かなライフステージづくり～
奈良県社会福祉総合センター



講演の始めに、大和郡山市手をつなぐ育成会発足から社会福祉法人育成福祉会設立とひかり園開所に至る経緯と、そこには障がいのある人の親や家族の熱い思いと強い願いがあったことを話されました。そのことを大切に受けとめ、スタッフとして、障がいのある人一人ひとりにスポットを当てた支援をしていかなければという気持ちで日々仕事をさせてもらっているということでした。今、相談支援の中で、親の高齢に伴う困りごとや悩みが急増しています。親なきあとに住まいや暮らし、将来はどうなるのだろうかという不安。でも後見人には任せられない、兄弟には迷惑かけたくない等切実です。では、どのような今後がよいのでしょうか？郡山育成福祉会における居住支援の実情を聞かせていただきました。本人がどのような暮らしをしたいかという強い思いが、スタッフや事業所を動かすエネルギーになっているということ。これしかない？ではなく、こうしていきたい！を実現していこうとする思いが大切だということ。一人暮

らし、シェアハウス、寮、グループホーム、介護付ホーム、入所施設、介護施設、医療機関での長期入院生活等々、100人いれば100通りの生活の仕方があって当然です。制度の中にはめこむのではなく、実現できる仕組みを作っていくことが大切であると話されました。また、障がいのある人は急な生活環境の変化に適応しにくい場合があるので、家庭の機能

講演 2

「生駒市地域生活支援拠点等の整備の現状と課題」

講師 社会福祉法人いこま福祉会
生活支援センターかざぐるま
センター長 大谷健太郎氏

低下の前に準備していくことの大切さ、さらに第三者の意見を交えた生活選択支援という点から後見制度の利用活用も必要であると話されました。最後に、大和郡山育成福祉会のこれからは、本人一人ひとり主体の生活を支援できるスタッフをどのようにつくっていくかが課題であると締めくくられました。

はじめに、地域生活支援拠点等の目的とその立ち上げの経緯について話されました。相談支援の仕事をしている中で、障がいの子をもつ親達のキーワード「この子より私は先に死ねません」を何度も聞きます。安心してこの子を残していける地域のしくみができていないという事です。障がい者の高齢化（重度化）や「親なき後」を見据え、障がい児者の地域生活支援をさらに推進するという観点から、住み慣れた地域で安心して暮らしていける様々な支援を切れ目なく提供できるしくみを構築するという目的をかけた、生駒市障がい者福祉計画（平成28年度～29年度）の中に「平成29年度末までに地域生活支援拠点を一ヶ所整備するように努めます」という目標が設定されました。この課題を生駒市自立支援協議会に投げかけ「くらし部会」を立ち上げました。ちょうどその頃、社会福祉法人いこま福祉会が親なき後に向けてのくらしの場グループホームの新設を検討していました。平成28年度完成予定と聞いていたので、生駒市といこま福祉会、そ

して自立支援協議会、3つの組織の課題と方策が一致し動き始めました。国から出された5つの機能目安、①緊急時の受け入れ対応機能②体験の機会・場の提供機能③相談機能④専門的人材の確保・養成機能⑤地域の体制づくり機能を確認し、今ある資源をつなぎ合わせた仕組みづくりへと歩み始めました。くらし部会の中で地域課題の整理検討を進めていく中、先進地視察（大分県大分市、栃木県佐野市）を実施したり、現地の方を招いて研修会を開催しながら、地域生活支援拠点事業の必要性を共有し、必要な機能の提案や具体的方策の検討がなされていきました。まずはできるところからということで、緊急時の受け入れの場と一人暮らし体験の場を提供する事業をスタートしました。さらに相談機能を平成30年12月開始で準備が進められています。

生駒市では地域全体で拠点を支えていこうという考えが進んでいます。知的だけでなく身体障がいの方や精神障がいの方の地域拠点作りも考えていきたい。また、専門的人材の確保養成や地域の体制



づくりにも着手し取り組んでいきたいと思っ
ています。

障がいのある方が自分のくらしを選択し、地域であたりまえに暮らせるように、インフォーマル資源とも協働しながら、本人がやってみたいと感じることを大切にしなが
ら、だれもが安心して暮らせるシステムづくりにこれからも取り組んでいきたいと思
います、という熱い言葉で締めくくられました。

午後からは6つのグループに分かれ、「地域でくらしつづけるために」というテーマでグループ討議をしました。午前中の講演についての感想やわが子の居住支援の状況、今悩んでいること等、それぞれの思いを出し合いました。グループホームの不足、支援者不足、医療的ケアの必要な方への支援の問題等、各グループから出された課題は山積みで切実なものでした。意見交換があったり、アドバイザーの話聞いて、午前中の講演内容を自分のものにする時間となりました。

最後に全員が集まり、6つのグループ討議の内容発表をしてまとめました。大和郡山市や生駒市は、奈良県内では先進的？な事業展開がなされていますが、はじめは、子どもを思う親の小さな声ひとつひとつにまとまり大きな声となつて行政や事業所を動かしたのではないのでしょうか。ニーズがあつて、システムづくりが始動するのだと思います。これからも、本人の高齢化と向きあい、本人の声と親の願いが届けられる活発な育成会活動でありたいと思
いました。(岡本記)



仔鹿園保護者研修会に参加して

去る31年1月28日10時30分～12時まで、昨年度に引き続き仔鹿園の保護者会にお招きいただき委員5名で参加しました。今回は「思春期の子の様子について」のテーマをリクエストしていただき、各委員が体験談を発表しました。思春期の男子の性のこと・女の子の月経の心配など、「聞きにくかったことが聞けてとても良かった」との感想をいただきました。他にも「昨年も参加しました!」「先輩お母さんのお話が聞けてとても安心しました」と声をかけてくださる方もおられ、来年度も参加させていただきたいです。(新内記)



全国手をつなぐ育成会連合会 全国大会京都大会

平成31年2月23日(土)
～24日(日)

大会スローガン

「京(みやこ)からほほえみあふれる新しい未来へ」

本人大会スローガン

「ほほえみあふれる未来に向けて 京の都で手をつなごう」



第5回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会京都大会が国際会館で開催され、全国各地から2日間で約4000人が参集して盛会でした。奈良県からは本人支援者を含め約100人が参加しました。

初日は6の分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿って基調講演やシンポジウムなどで研修しました。

なかでも本人大会の第1分科会は、又村あおい氏を助言者に招き、県内多くのボランティアの方々協力を得ながら、奈良県育成会本人の会が準備と進行を担当しました。

「はたらくトーク みんなで話し合おう」はたらく」をテーマに、活発な意見交換の場となりました。

2日目は大会式典で、大西知代先生と陸田八郎さんが表彰されました。長年のご功績に敬意を表すと共にお祝い申し上げます。今後も益々ご活躍されますようお願い致します。

次に、きたやまおさむ氏による「あの素晴らしい愛について」の記念講演を拝聴しました。

母親は、いにしえの昔から日常の家事をしながら、傍らの我が子が興味を示しているものを共に視、共に楽しみ、遊びながら文化や行事を伝えてきました。これらの平均的な過去の事実を、浮世絵を通してわかりやすく教えて下さいました。親が子を育む情愛は、今も昔も変わりなく深く尊いことを改めて認識し、自分たちも知らず知らずのうちに親から子へと伝えていたことに気づきました。すばらしい講演でした。

(岩井記)



私の生い立ち

山本悦子



人生は十人十色あるとは思いますが、私の経験してきたような人生は数少ないと思います。育ててくれた養父母への感謝、引き離された実の両親への思い、親亡き後を見すえて行動した強い祖母への尊敬の念も込めて記しました。今は亡き両親は共に一種一級の視力障害。私が物心ついた時から白い杖と見えない目の代わりに両親の暖かい手があり、なぞる指先の一本一本が私の成長を知る手がかりであり、愛の証でもありました。

父は先天性弱視で産まれ、早くに親を亡くして自活の為マッサージュ業の親方の家で住み込みで働くようになりました。実子を戦争で亡くし父を我が子のように見守り、先々自立する為に家事全般大工針仕事等教えてもらったそうです。この時の教えが父には盲人であっても不自由なく生きる自信につながったと言っていました。父はいい出会いに恵まれたと思います。一方母は裕福な農家で兄や弟妹と幸せな生を受けましたが、二才の時はいしかの高熱により失明しました。山村であるにもかかわらず祖母は必死にかけずり回り、全寮制の盲学校の存在を知り、母を入学させてマッサージュ師の資格を取

らせました。父と結婚。しかし子宝に恵まれず母の先行きを案じ、母の兄の娘であった私を養女に決めたそうです。

祖父母には全盲の娘夫婦を思う親心ゆえの決定でも私の実母は舅姑の命令とはいえ二才にも満たない実子を手離す悲しみはいかばかりだった事でしょう。残された実母を思い兄姉達が何度も私を取り返しに行き祖母に追い返された事は後々姉達が話してくれました。

しかしそんな周りの思わくをよそに私はあつけないくらい自然に養父母をした絆を深めていきました。親子になるべくしてなった縁がもしもありません。父は器用に手作りのおもちゃを作ってくれたり、ケガをした時は体中あちこちぶつけながら医者のところへ連れていってくれました。母は小学校の頃から一度も欠かさず授業参観に来てくれました。低学年の頃は素直に喜んだ私も高学年になると、母の閉じた顔や白い杖に注がれる皆の視線が無性に嫌で、手引きをする私への無遠慮な視線も耐えがたく、親の存在をうつつとおしく感じた事も事実です。そんな娘の複雑な心を知ってはいたであろう母は夜眠る前にいつも自作の物語をおもしろおかしく聞かせてくれました。同じ布団で母のぬくもりを一人占めしていた幸せな一時が常にありました。

想像力や文章への興味は物語を通して私に注いでくれた母の精一杯の心が作

てくれたのだと思います。私が養女である事もいつしか他人の口から入ってきたましたが中学生の時に打ち明けてくれました。不思議にも私自身は強いショックもなくむしろ打ち明けてくれてより一層両親への感謝の気持ちが湧いてきた事を見ています。いつも明るい両親の涙を見たのは七夕かざりに「お父さんお母さんの目が見えますように。」「育ててもらってありがとう。」と書いて二人に聞いてもらった時だけでした。「この世には見えなくてもいいものもたくさんある。目は見えなくても神様は心で見られる大事なものの一杯見せてくれる。一回きりの人生が幸せだという生き方をしないともったいないよ。」そんな両親の前向きな人生哲学のお蔭で、多感な学生時代を許し合った友人達には両親の存在を何の抵抗もなく口に出せるようになっていました。

今私は二人の息子の母、孫にも恵まれましたが、見える目を持った私は両親のように本当に大事なものを見失わずにこれたでしょうか。私と引き離された実母は悲しみや辛さに耐え、私には最後まで実母とは名のりませんでした。生きていた間に「お母さん」と呼んであげたかったです。親亡き後の娘を思い周りの陰口にも意に介さず愛をつらぬいた強い祖母。大切な人達に守られて愛されて今の私がある事に心から感謝しています。

「あたらしいほうりつの本」(改訂版)



障害のある人が地域でくらししていくために必要なサービスができるだけ分かりやすく紹介しています。特に障害のある人のくらしを支える福祉サービスを中心に取り上げています。イラストも多く、とても読み易くなっています。購入をご希望の方は

公益社団法人日本発達障害連盟
(03-5814-0391)

に注文して下さい。

(定価1,200円+税)

表彰

平成30年12月4日

奈良県障害者自立支援更生者表彰

おめでとうございます。

橿原市 梅本祥孝様

橿原市 西田孝行様



第4回 HAPPY RING 開催しました!

2019年1月16日(木)田原本の心身障害者福祉センターで委員8名・会員1名・一般の方1名で行いました。話題としては、「ドクターとカウンセラーの違い・各セラピーの紹介」や「問題行動の解決策としての自己肯定感を高める関わり方(福祉サービスの利用・写真などで興味を伸ばす)」、「思春期のおとずれ:千住先生の講演を参考に肯定的に認めていく関わり方」などが上がり、参加者が意見を出し合い、共感し、改めて仲間とつながる良さを感じました。

今回で今年度の HAPPY RING は終了致しますが、相談したい事などありましたらいつでも育成会のドアをノックしてくださいね、どうもありがとうございました。

(新内記)

障害福祉賞受賞の思い

生駒市 山口 歩

今回、思いもかけず、素晴らしい賞をいただき、自分自身が大変驚いております。手記には息子たちが自閉症だと診断され、これまで無我夢中で過ごしてきた日々を綴りました。辛かったことも、悲しかったことも、笑って話せる今、私たち家族は心から幸せです。子育ては大変かもしれないけれど、この子たちは不幸ではない!!との思いで書かせていただきました。

受賞の後、NHKハートネットTVにも出演させていただき、様々な反響がありました。一人目のお子さんに障害があり、二人目をためらう女性から「仲のいい兄弟の様子から、頑張る気持ちになりました」や、普段、障害について深く考えることがなかった方からも「家族と障害について話すきっかけになった」などのコメントが寄せられました。中でも一番胸が熱くなったのは、長男マオの同級生のお母さんの言葉です。「高校生になった息子と何年振りかで一緒にテレビを

見ました。山口さん一家のおかげで家族といっぱい話せたのよ。地域の小学校、中学校を選んでくれて、本当にありがとうね。マオくんと一緒にクラスだったこと、過ごした時間は宝物です」と涙を浮かべて何度も何度も「ありがとう」と言ってくれたのです。

息子たちが小さい頃、私たちの子育ては「ごめんない、すみません」と謝ってばかりでした。それが、理解が深まってみんなの中で過ごせるようになり「ありがとうございませう」と感謝を伝えられるようになり、今こうして「私たちと出会えた事を喜び「ありがとう」と心から言ってくれた方がいます。

私たちの子育て奮闘記はまだまだ続きます。これまで出会ったすべての皆様に感謝し、これからも私たちがらしく、朗らかに毎日生活していきたいと思えます。

知的障害者相談員 親なき後検証委員会 合同研修会を終えて

テーマ
知っておこう障害がい者の
高齢化にむけて

講演1

65歳問題について

講師：中和園域マネージャー木村淳志氏

内容・障害者総合支援法と介護保険制度の違いや、65歳になっても利用者の状況に応じて検討されるため、一概に介護保険優先にならないことを学びました。

講演2

事業所から医療的ケアの事例

講師：ホームヴィレッジ職員川口舞氏

劇症1型糖尿病・重積てんかん・認知症・誤嚥性肺炎などの事例の報告がありました。

誰もが直面するであろう問題について学べた有意義な研修会でした。(太田記)

知的障がい・発達障がい
ダウン症・てんかんの
ある方のための保険

ぜんちの あんしん保険

東京海上日動の
個人賠償責任補償付
少額短期健康総合保険(無告知型) 2016年創設

病気やケガでの
入院

虐待・差別・逮捕に
対応

誤って物を壊してしまう...

個人賠償
責任補償
最高5億円

※(総合生活保険(個人賠償責任補償))
引受保険会社:東京海上日動火災保険株式会社

最高日額1万円

弁護士費用補償

ぜんちの ことども傷害保険

東京海上日動の
個人賠償責任補償付
権利保護補償付傷害保険(2016年創設)

日常生活でケガを
することが多い...

トラブルに巻き込まれた際、
誰も助けてくれない...

当事者同士での
解決が難しい...

入院・通院を日額保障

弁護士がサポート

示談交渉サービス付き

ネット申込・年払・月払OK | クレジットカード払OK ※ネット申込み

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

詳しい資料のご請求・お問合せは下記までお気軽にどうぞ

<代理店>

[2017年12月作成 17-T08668]

有限会社 保険セントラル

TEL 0742-50-6600 FAX 0742-50-6610

〒630-8451 奈良県奈良市北之庄町41-1 2F 201号

ぜんち共済株式会社

ZENCHI 関東財務局長(少額短期保険)第14号
〒101-0032 東京都千代田区岩本町三丁目5番8号岩本町シティプラザビル5F

コールセンター 0120-322-150

ぜんち共済 検索 http://www.z-kyosai.com/





サンメイト美術館

作品 募集中!!

国や、奈良県でも、芸術、文化の振興に力を入れています。

そこで、奈良県手をつなぐ育成会も、ホームページ上にサンメイトの皆さんの作品を紹介するコーナー（サンメイト美術館）を設置することにいたしました。知的・発達障害のある人の豊かな表現を社会に発信し、社会参加の促進の一助になることを願っています。サンメイト等の皆様の作品を募集いたします。作品は、絵画、工芸、生け花、詩などで制作年は問いません。投稿は所定の申し込み用紙に記入して写真でお願いします。詳しくは事務局までお問合せ下さい。



皆さんの素敵な作品を
どんどん掲載して参ります

一般社団法人・奈良県手をつなぐ育成会の
パンフレットができました



スマホなどからQRコードを読み取って頂ければ、簡単にHPが閲覧出来るようになりました。

訃報



中岡俊恵さん
母（七十六才）吉野郡

武若宏智さん
本人（四十九才）広陵町

石田ソヨノさん
母（九十八才）桜井市

高橋正能さん
母（八十六才）橿原市

五師慶子さん
本人（六十三才）大和郡山市

賛助会員募集

名称 一般社団法人奈良県手をつなぐ育成会賛助会員
賛助会費 個人：一口1,000円 年額（4月1日～3月31日）
団体：一口10,000円 年額（4月1日～3月31日）

行事予定

- 4/18 行政説明会
- 5/26 障害者スポーツ大会
- 6/3 近畿連リーダー研修
- 6/7 奈良県手をつなぐ育成会総会

H30年度賛助会員
(敬称略)

- 団体 宗教法人光明院、GH「スマイル」、広陵町すみれ作業所、第2すみれ作業所、文洋堂
- 個人 杉本幸弘、杉浦加代子、増田誠、泉平康生、辻本寿子、中野紀美代、阪田尚己、松村都史子、畠山拓也、奥田敬頼、森嶋健永、鈴木美春、永野栄良、小桜達也、田中章代、山岡亨、篠田信子、篠田律子、桂田和子

奈良県手をつなぐ育成会へのあたたかいご支援を心より感謝申し上げます。



この子らを世の光に
地域であたりまえに暮らせる生活環境を

検索

一般社団法人
奈良県手をつなぐ育成会



または
QRコード

